



2020年12月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年8月14日

上場会社名 株式会社レッド・プラネット・ジャパン
 コード番号 3350 URL <http://www.redplanetjapan.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) ティモシー・ハンシング
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 王生 貴久

TEL 050-5835-0966

四半期報告書提出予定日 2020年8月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第2四半期の連結業績(2020年1月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|----------------|-------|------|------|---|-------|---|----------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2020年12月期第2四半期 | 436 | 64.4 | 718 | | 1,037 | | 951 | |
| 2019年12月期第2四半期 | 1,226 | 54.6 | 177 | | 111 | | 62 | 82.7 |

(注) 包括利益 2020年12月期第2四半期 837百万円 (%) 2019年12月期第2四半期 6百万円 (%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益 |
|----------------|-------------|------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2020年12月期第2四半期 | 16.67 | |
| 2019年12月期第2四半期 | 1.26 | |

(注) 1 2019年4月10日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

2 2019年12月期第2四半期は、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 2020年12月期第2四半期は、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|----------------|--------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2020年12月期第2四半期 | 14,203 | 2,388 | 16.8 |
| 2019年12月期 | 15,059 | 3,296 | 21.3 |

(参考) 自己資本 2020年12月期第2四半期 2,380百万円 2019年12月期 3,202百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|---------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2019年12月期 | | 0.00 | | 0.00 | 0.00 |
| 2020年12月期 | | 0.00 | | | |
| 2020年12月期(予想) | | | | 0.00 | 0.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日～2020年12月31日)

2020年12月期の連結業績予想は、現在精査中であり、今後、取り纏まり次第速やかに開示いたします。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|-------------------|-------------|--------------|-------------|--------------|
| 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 2020年12月期2Q | 57,192,187 株 | 2019年12月期 | 57,059,487 株 |
| 期末自己株式数 | 2020年12月期2Q | 12,555 株 | 2019年12月期 | 10,415 株 |
| 期中平均株式数(四半期累計) | 2020年12月期2Q | 57,114,660 株 | 2019年12月期2Q | 49,214,283 株 |

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本

資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 2 |
| (3) キャッシュ・フローに関する説明 | 2 |
| (4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 2 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 3 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 3 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 5 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 5 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 6 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 7 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (セグメント情報等) | 8 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間は、新型コロナウイルスの世界的なパンデミックがより深刻さを増し、当社業績は壊滅的な影響を受けた結果になりました。

当社が事業を展開している日本及びタイにおいては、アジアだけではなく欧米を含むほぼ全世界からの旅行者やビジネス客が入国できなくなったことから、訪問客の数はほぼゼロに近い状態に陥り、状況は未だ収束の兆しが見えておりません。

そのような状況下において、当社は日本及びタイの大多数のホテルを一時休業せざるを得なくなり、売上高が前年同期比で64.4%減少するという、未曾有の危機に陥りました。できる限りの販売費及び一般管理費を削減するように努めてまいりましたが、固定費であるリース料や人件費を売上に見合うほど下げることは難しく、結果的に多額の営業損失を計上する結果になりました。

また当社はタイバーツとフィリピンペソによる外国通貨建ての債権を保有しているために、両通貨の為替レートの変動を受け、当第2四半期連結累計期間において220百万円の為替差損（前年同期は151百万円の為替差益）を計上いたしました。これら両通貨は日本円に対して弱く変動し、その原因としてもやはり新型コロナウイルスの影響が考えられますが、外国為替市場においては、経済の構造的な要因ではなく心理的な要因での変動は一時的になりがちであり、やがて落ち着くものと予測しております。ここ数年、両通貨は両国の経済発展を映して堅調に推移してきた経緯があり、当社グループは引き続き両国での事業の将来性に期待しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高436百万円（前年同期比64.4%減）、営業損失718百万円（前年同期は営業損失177百万円）、経常損失1,037百万円（前年同期は経常損失111百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失951百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益62百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は14,203百万円となり、前連結会計年度末に比べ856百万円減少いたしました。

流動資産は1,090百万円となり、前連結会計年度に比べて883百万円減少しております。これは主に、現金及び預金が538百万円減少したこと及び売掛金が202百万円減少したためであります。

固定資産は13,113百万円となり、前連結会計年度に比べて27百万円増加しております。これは主に、有形固定資産が146百万円及び無形固定資産が1百万円減少したものの、投資その他の資産が174百万円増加したためであります。

負債合計は11,815百万円となり、前連結会計年度末に比べ52百万円増加しております。これは主に、固定負債が109百万円減少したものの、流動負債が161百万円増加したためであります。

純資産合計につきましては、2,388百万円となり、前連結会計年度末に比べ908百万円減少しております。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失を951百万円計上したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末の1,091百万円に比べ538百万円減少し、553百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって支出した資金は74百万円（前年同期は186百万円の支出）となりました。その主な要因は、税金等調整前四半期純損失950百万円、減価償却費211百万円、為替差損220百万円及び法人税等の還付額176百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によって支出した資金は453百万円（前年同期は1,151百万円の支出）となりました。その主な要因は、有価固定資産の取得による支出160百万円及び長期貸付けによる支出292百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によって獲得した資金は5百万円（前年同期は137百万円の支出）となりました。その主な要因は、長期借入金の返済による支出130百万円、長期借入れによる収入210百万円及びリース債務の返済による支出89百万円によるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期の連結業績予想については、現在精査中であるため、記載しておりません。当該連結業績予想については、算定ができました時点で速やかに開示する予定であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2019年12月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日) |
|-----------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,091,156 | 553,057 |
| 売掛金 | 237,768 | 34,951 |
| その他 | 646,564 | 503,853 |
| 貸倒引当金 | △1,804 | △1,724 |
| 流動資産合計 | 1,973,684 | 1,090,138 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 2,208,774 | 2,055,554 |
| 信託建物及び信託構築物(純額) | 1,639,041 | 1,609,757 |
| リース資産(純額) | 4,097,496 | 3,986,029 |
| 建設仮勘定 | 1,535,336 | 1,710,806 |
| その他(純額) | 1,432,749 | 1,405,127 |
| 有形固定資産合計 | 10,913,398 | 10,767,275 |
| 無形固定資産 | 4,689 | 3,624 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資その他の資産 | 2,525,203 | 2,699,906 |
| 貸倒引当金 | △357,310 | △357,310 |
| 投資その他の資産合計 | 2,167,893 | 2,342,595 |
| 固定資産合計 | 13,085,981 | 13,113,496 |
| 資産合計 | 15,059,665 | 14,203,635 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2019年12月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 130,004 | 101,043 |
| その他 | 772,553 | 962,959 |
| 流動負債合計 | 902,557 | 1,064,003 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 3,257,172 | 3,341,512 |
| リース債務 | 7,120,251 | 6,940,467 |
| その他 | 483,134 | 469,425 |
| 固定負債合計 | 10,860,559 | 10,751,405 |
| 負債合計 | 11,763,116 | 11,815,408 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 3,089,205 | 3,096,887 |
| 資本剰余金 | 2,309,146 | 2,316,828 |
| 利益剰余金 | △1,883,578 | △2,835,418 |
| 自己株式 | △138,748 | △138,915 |
| 株主資本合計 | 3,376,025 | 2,439,381 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| 為替換算調整勘定 | △173,277 | △58,607 |
| その他の包括利益累計額 | △173,277 | △58,607 |
| 新株予約権 | 93,801 | 7,452 |
| 純資産合計 | 3,296,549 | 2,388,226 |
| 負債純資産合計 | 15,059,665 | 14,203,635 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日) |
|---------------------------------------|---|---|
| 売上高 | 1,226,682 | 436,434 |
| 売上原価 | 242,980 | 122,208 |
| 売上総利益 | 983,701 | 314,226 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,161,158 | 1,032,269 |
| 営業損失(△) | △177,457 | △718,043 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 4,075 | 8,110 |
| 為替差益 | 151,703 | — |
| その他 | 16,430 | 4,298 |
| 営業外収益合計 | 172,210 | 12,408 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 90,649 | 102,398 |
| 為替差損 | — | 220,367 |
| その他 | 15,181 | 8,763 |
| 営業外費用合計 | 105,830 | 331,529 |
| 経常損失(△) | △111,078 | △1,037,164 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | — | 85 |
| 新株予約権戻入益 | 10,325 | 86,245 |
| 受取補償金 | 167,620 | — |
| 特別利益合計 | 177,945 | 86,331 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 213 | — |
| 和解金 | 3,240 | — |
| 特別損失合計 | 3,453 | — |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△) | 63,413 | △950,833 |
| 法人税等 | 1,263 | 1,007 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | 62,150 | △951,840 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | 62,150 | △951,840 |

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日) |
|-------------------|---|---|
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | 62,150 | △951,840 |
| その他の包括利益 | | |
| 為替換算調整勘定 | △68,783 | 114,670 |
| その他の包括利益合計 | △68,783 | 114,670 |
| 四半期包括利益 | △6,633 | △837,170 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △6,633 | △837,170 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日) |
|-------------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△) | 63,413 | △950,833 |
| 減価償却費 | 221,554 | 211,476 |
| 長期前払費用償却額 | 10,480 | 19,803 |
| 受取利息及び受取配当金 | △4,075 | △8,110 |
| 為替差損益(△は益) | △156,395 | 220,256 |
| 新株予約権戻入益 | △10,325 | △86,245 |
| 支払利息 | 90,649 | 102,398 |
| 固定資産売却益 | — | △85 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | 10,432 | 136,049 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | 1,078 | 2,546 |
| 退職給付に係る負債の増減額(△は減少) | 3,201 | 2,937 |
| その他 | △504,951 | 250,358 |
| 小計 | △274,936 | △99,449 |
| 利息及び配当金の受取額 | 5,386 | 3,477 |
| 利息の支払額 | △83,234 | △100,268 |
| 法人税等の還付額 | 186,657 | 176,361 |
| 法人税等の支払額 | △20,658 | △54,460 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △186,784 | △74,339 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △782,470 | △160,980 |
| 貸付金の回収による収入 | 65,000 | — |
| 長期貸付けによる支出 | — | △292,190 |
| 匿名組合出資金の払戻による収入 | 33,900 | — |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 | △411,502 | — |
| 敷金及び保証金の回収による収入 | 11,080 | — |
| 敷金及び保証金の差入による支出 | △67,635 | — |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,151,627 | △453,170 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 長期借入金の返済による支出 | △83,315 | △130,561 |
| 長期借入れによる収入 | — | 210,555 |
| リース債務の返済による支出 | △104,117 | △89,632 |
| 株式の発行による収入 | 50,008 | 15,260 |
| 自己株式の取得による支出 | △515 | △167 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △137,939 | 5,454 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 4,097 | △16,043 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △1,472,254 | △538,098 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 2,623,180 | 1,091,156 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 1,150,925 | 553,057 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、過年度より継続して営業損失、経常損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。また当第2四半期連結累計期間においても、重要な営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく下記のような対応策を講じ、当該状況の解消または改善に努めております。

① 収益力の向上

ここ数年、日本への訪問客の増加が続いていたことから、日本国内のホテル需要は増加の一途をたどっております。一方で、全国の主要都市に多くのホテルが新規オープンし、新たに市場に供給された客室数の増加に伴い、競争が激しくなっております。また、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、当社グループの強みであったインバウンド旅行者に対するブランドの強みと位置付けを生かすことができず、もっぱら日本人宿泊客の需要をいかに獲得していくかが喫緊の課題となっております。国内の感染拡大が収束しないなか、安心安全を前面に謳いながら、宿泊プランの多様化やサービスの拡充を推進し、ホテルの客室単価と客室稼働率の維持・向上に努めて収益を確保してまいります。休業しているホテルについては、経営環境を吟味し状況に応じて随時営業を再開させてまいります。

タイで運営中の5棟のホテルについても、2棟は休業しておりますが、営業を再開した3棟については日本と同様の施策を展開して客室単価と客室稼働率の維持・向上に努めて収益を確保してまいります。

また、各ホテルの採算について常時モニタリングを行うなど経営管理体制の強化に努め、収益力の向上を図ってまいります。

② 事業基盤の拡大

現在合弁事業を通じて建設中の「レッドプラネット広島」を計画通り本年8月に竣工し開業すること、同じく合弁事業を通じて取得した京都市中京区の土地でホテル建築を計画通り進めて竣工させること、フィリピンで建設中のホテル2棟を確実に竣工させ開業することなどを通して、更なる事業強化を図ってまいります。

③ 資本政策の促進

当社は、2019年7月25日付で、ホテル事業の拡大及び推進を目的として、第三者割当増資の方法により新株式、及び第8回新株予約権の発行を行い、当新株予約権の一部が行使されましたが、残りの分については2020年4月1日付で消滅いたしました。今後は、ホテル事業の更なる強化と業績の改善を図りながら、新たな資金調達の手段を検討してまいります。また、合弁事業からの投資回収等を通じて、事業資金の確保と将来の事業基盤の拡大に向けた資金調達を行ってまいります。

④ コスト削減

当社グループでは、事業の拡大に伴い営業コストと本社経費が増加し、特に将来の成長を見込んだ先行投資が負担となっております。今後は販売費及び一般管理費を見直し徹底的なコスト削減を実施し、成長と利益のバランスをとりながら経営努力をしてまいります。

上記の施策を着実に実行することにより、当社グループの経営基盤の強化を図ってまいります。当該施策のうち収益力の向上及び資本政策の促進については、新型コロナウイルス感染症の影響などの外部要因に大きく影響を受ける側面もあることから、現時点においては継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は、継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、ホテル事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。